

# Clinical efficacy and factors predictive of therapeutic effect for the TNF inhibitor golimumab in patients with rheumatoid arthritis

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2016-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 杉崎, 良親 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001795">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001795</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1652 号

Clinical efficacy and factors predictive of therapeutic effect for the TNF inhibitor golimumab in patients with rheumatoid arthritis

(関節リウマチにおける TNF 阻害薬ゴリムマブの有効性と治療効果予測因子の検討)

杉崎 良親 (すぎさき ながちか)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、関節リウマチ治療における中心をなすメトトレキサートおよび最近頻用されている生物学的抗リウマチ薬の一つであるゴリムマブについて、単一病院内での通院患者を継続的に観察し、その有効性について検討を行うとともに、GLM の治療効果に関連する因子について解析を行った。さらに、患者血清中サイトカイン・ケモカイン濃度を最新の研究手法である Bead array 法にて測定し、治療による変化や臨床効果との関連について検討したものである。

本研究はこれまでの報告同様、より関節破壊の少ない早期に、特にbDMARD未投与例に対して十分なMTX併用下で行うことにより、臨床的寛解達成につながることを強く示唆しただけでなく、多変量解析で、関節破壊の低進行度およびMTX併用量増加がそれぞれ独立した臨床的寛解寄与因子であることを示した。さらに血清サイトカイン・ケモカインにおいて、IL-6濃度がGLMにより有意に低下し、低下の程度と疾患活動性の改善度に相関を確認し、薬剤投与前にいくつかの血清中サイトカイン濃度を測定することでゴリムマブの有効性の予測が立てられる新たなバイオマーカーの存在の可能性を示した画期的な論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。